

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	784 遠距離通学バス利用事業	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	03	中学校費
基本 施策	31 個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	目	01	学校管理費
		細目	415	学校管理経費
		細々目	08	遠距離通学バス使用料
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード 450100 名称 教育総務課	担当者 氏名	澤 昌道	連絡先 22 - 9675 (内線) 3810

### 事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	桃青中学校(諏訪地区)の生徒及びその保護者	※対象件数	17
成果(どうする)	通学の安全が保障され、保護者の負担が軽減される。		
根拠法令・要綱等			
開始年度	平成 16 年度	関連事業	
終了年度	平成 年度		
H22 事業 内容	1. 通学のための乗り合いバス使用料の保障		
社会情勢 の変化等	平成21年度から諏訪地区生徒及び三田地区の一部の生徒も乗合バスを利用して城東中学校へ通学するようあわせて調整中。		

#### 整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

#### 運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

### 事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
補助対象者数	人		目標	18	目標	17
			実績	19	実績	17
			目標		目標	
			実績		実績	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
事故発生率	%	通学距離が5km以上あるにもかかわらず、スクールバスが導入されていないので保護者の負担を考慮して設定した。		目標	0	目標	0
				実績	0	実績	0
				目標		目標	
				実績		実績	

投入 コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	972	972
	一般財源	1,572	1,632	972	972
事業投入人件費(B)		0.1人	0.1人	0.1人	0.1人
フルコスト(A)+(B)		2,292	2,352	2,664	2,664

### 事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
効率性	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
昨年度の 取組状況	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	
	昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	* 伊賀市の交通体系が22年度で再検討されていく中で、スクールバスと行政バス、路線バス等の調整を行っていく。	
	【状況】 計画のとおり進んでいる	
昨年度の 取組状況	【詳細】	
	諏訪線は運行体系に変更なし。	

### 今後の方向性(Action)

評価者氏名 (担当課長)	伊室春利
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 城東中学校(諏訪地区)の遠距離通学者の通学費の補助のため、削減はできない。現状のまま事業を継続していくことが妥当である。
現時点における 課題、その他	* 城東中学校設立の際、当初は諏訪から中学校までの専用スクールバスで登下校する話も出ていた。しかし、諏訪行きの路線バス乗客がこれ以上減っていくと、廃止対象路線となってくるため、地元の要望もあり、一部路線バスでの運行となった。 * 往路:路線バス(諏訪~上野産業会館)、スクールバス(上野産業会館~城東中学校) * 復路:スクールバス(城東中学校~伊賀上野駅)、路線バス(伊賀上野駅~諏訪)
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	* スクールバスと行政バス、路線バス等の調整を行っていく。